

(仮称)文化芸術ホール整備に向けた気運醸成事業
シンポジウム・ワークショップ

テーマ

共生社会 と創造性 をめぐって

令和5年1月9日[月・祝]午後1時30分～午後6時30分(午後1時開場)

シンポジウム——午後1時30分～午後4時
ワークショップ——午後4時30分～午後6時30分

赤坂区民センター

定員 | シンポジウム 400名(申込順) / ワークショップ 30名(区内在住・在勤・在学者優先で抽選)

申込期間 | 区内在住・在勤・在学の方は、優先的に申込みいただけます。

シンポジウムの申込(申込順) | 区内在住・在勤・在学の方: 令和4年12月1日(木)～令和5年1月8日(日)
一般の方: 令和4年12月8日(木)～令和5年1月8日(日)

ワークショップの申込 | 令和4年12月1日(木)～定員に達し次第締切

※ワークショップのみのお申し込みはできません。

詳細は下記Webサイトをご確認の上、お申込みください。

問合せ先 | NPO法人芸術公社 URL: <https://artscommons.asia>

電話: 080-3936-6676 (土、日、祝日を除く月～金曜 午前10時～午後4時)

メール: artscommons.tokyo.inquiry@gmail.com

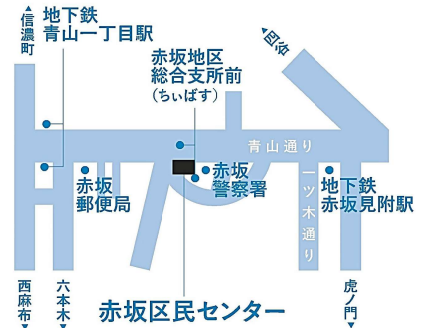
主催 | 港区

参加費無料

どなたでもご参加いただけます。

一時保育あり
(定員10名、申込順)

手話通訳あり
(シンポジウム)



赤坂区民センター

港区赤坂4-18-13 (赤坂コミュニティーふらざ内)

地下鉄 銀座線・丸の内線 |

赤坂見附駅下車 A出口徒歩10分

地下鉄 大江戸線・銀座線・半蔵門線 |

青山一丁目駅下車 4番出口徒歩10分

※当区民センターには専用の駐車場はありませんので、お車での来場はご遠慮ください。

お申込み方法 |

下記フォームよりお申込みください。

シンポジウム申込

ワークショップ申込



共生社会と創造性をめぐって

区は、令和9年度開館に向け、文化芸術の中核拠点となる（仮称）文化芸術ホールの整備を進めています。

本イベントでは、港区が重点的な取組として掲げる「多様な価値観を認め合う、共生社会の実現」というビジョンに呼応し、芸術文化がもつ創造性がいかに共生社会の実現に関与しうるのか、専門家を交えて議論を行います。

シンポジウム

定員 | 400名

第1部 | 午後1時30分-午後2時

港区の文化政策と文化芸術ホールの基本理念等について、文化芸術ホール参与がその全体像を解説します。

片山泰輔（静岡文化芸術大学教授、文化芸術ホール参与）

第2部 | 午後2時-午後4時

コロナ禍において、誰もが社会的弱者になりえることを気づかされました。また、社会の至るところでケアを担ってきた人たち、医療従事者やケア労働者、ヤングケアラーといった人々の存在が顕在化しました。一方的なケアではなく、相互にケアしあう共生社会とはどのようなものでしょうか。アフターコロナに目指すべき共生社会の形と、芸術文化が担う役割について、具体的な事例を交えつつ議論を行います。

登壇者 | 伊藤亜紗（美学者、東京工業大学教授）

猪股剛（臨床心理士、ユング派分析家）

中村佑子（作家、映画監督）

司会 | 相馬千秋（アートプロデューサー、文化芸術ホール参与）

ワークショップ

定員 | 30名

午後4時30分-午後6時30分

シンポジウムでの議論を受けて、アソシエート・リサーチャー（研究員）らと交え、対話型のワークショップを行います。

詳細については令和4年12月上旬にWebサイト (<https://artscommons.asia>) に掲載しますのでご確認ください。

シンポジウム講師／登壇者 プロフィール

伊藤亜紗 いとう・あさ

美学者、東京工業大学教授。もともと生物学者を目指していたが、大学3年次より文転し、人間の体の多様なあり方を研究。主な著作に『目の見えないう人は世界をどう見ているのか』（光文社）、『どもる体』（医学書院）、『記憶する体』（春秋社）、『手の倫理』（講談社）など。WIRED Audi INNOVATION AWARD 2017、第13回（池田晶子記念）わたくし、つまりNobody賞、第42回サントリー学芸賞を受賞。



猪股剛 いのまた・つよし

1969年生、ユング派分析家、臨床心理士／公認心理士。精神科や学校において臨床実践に携わりとともに、現代の深層や、表現やパフォーマンスの精神性を思索することを専門としている。帝塚山学院大学准教授、著書に『心理学の時間』（単著・日本評論社）、『ホロコーストから届く声』（編著・左右社）、『遠野物語、遭遇と鎮魂』（共著・岩波書店）、訳書に『近代心理学の歴史』『分析心理学セミナー1925』（いずれも、C.G.ユング著・創元社）などがある。



中村佑子 なかむら・ゆうこ

1977年、東京生まれ。慶應義塾大学文学部哲学科卒。哲学書房にて編集者を終り、テレビマニオン参加。美術や建築、哲学を題材としながら、現実世界のもう一枚深い皮層に潜るようなナラティブのドキュメンタリーを多く手がける。映画作品に『はじめの記憶 杉本博司』『あえかなる部屋 内藤礼と、光たち』。シアター・コモンズ'21でAR体験型映画『サスペンデッド』を発表。2020年12月に初の単著『マザリング 現代の母なる場所』を出版。



片山泰輔 かたやま・たいすけ

静岡文化芸術大学文化政策学部教授・文化芸術ホール参与。慶應義塾大学経済学部卒、東京大学大学院経済学研究科修了。専門は芸術文化政策、財政・公共経済。文化経済学会（日本）会長。公職として（公財）東京交響楽団評議員、（一社）浜松創造都市協議会代表理事、滋賀県文化審議会会長等。1995年、芸術支援の経済学的根拠に関する研究で日本経済政策学会賞（奨励賞）、2007年、『アメリカの芸術文化政策』で日本公共政策学会賞（著作賞）受賞。港区在住。



相馬千秋 そうま・ちあき

アートプロデューサー。文化芸術ホール参与。東京藝術大学大学院美術研究科准教授。2017年より毎年港区で開催されている「シアター・コモンズ」実行委員長兼ディレクター。NPO法人芸術公社代表理事。演劇、現代美術、社会関与型アートなど領域横断的な同時代芸術のキュレーション、プロデュースを専門としている。

